

『廃寺は語る！よみがえる鹿児島島の仏教文化』事業 ～照信院跡発掘調査・ワクワク考古楽授業支援～

埋蔵文化財センター

『廃寺は語る！よみがえる鹿児島島の仏教文化』事業

幕末から明治時代初め、王政復古によって祭政一致を目指す新政府は、明治元(1868)年に神仏分離令を出し、神社からの仏教的要素の払拭に努めました。多くの地方では神仏分離のみでしたが、本県は寺院・仏像の破壊、經典・仏具の焼却を求めるなど徹底した廃仏を断行し、すべての寺院を破壊したため、鹿児島島の仏教文化は大きなダメージを受けることになりました。

本事業は、発掘調査や文献調査を行い、近代化の流れの一方で失われた寺院の状況を解明し、その存在や歴史的価値をよみがえらせることを目的としています。

■ 本年度の事業（発掘調査）

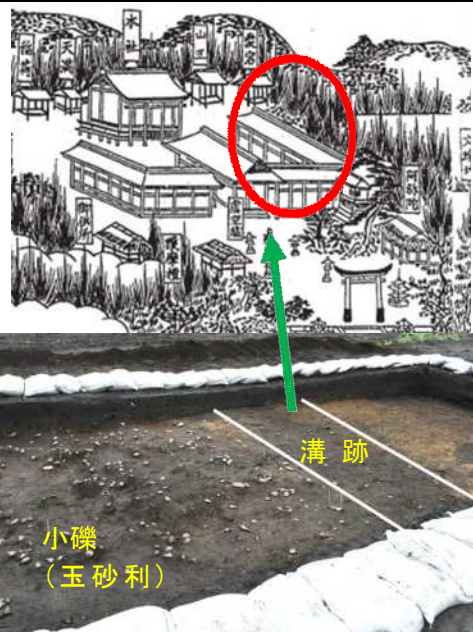
本年度は、大崎町神領に所在する「照信院跡」の発掘調査を行いました。照信院は明治元(1868)年の廃仏毀釈によって廃寺となりました。現在は、飯隈山照信院本社があったとされる場所に熊野神社が建てられています。

今回の調査では、『三国名勝図会』をもとに掘り下げる場所を8か所設定し、調査を行いました。



熊野神社

現在の熊野神社を中心にほぼ左右対称にある溝跡を発見し、溝跡から神社側の範囲から多くの小礫が出土しました。溝跡は『三国名勝図会』にある回廊部分で、小礫は玉砂利ではないかと考えられます。その他にも、小石が詰まったピットやかまど状遺構が見つかっています。



発見された溝跡

また、懸け仏の一部である華瓶（けびょう）や寛永通宝、青磁や薩摩焼などの陶磁器や土師器が出土しています。



華瓶（けびょう）
照信院跡から出土

参考
聖観音懸仏（重要文化財）
東京国立博物館デジタル
コンテンツから引用

6月24日には、現場見学会を行い、多くの地域の方が来跡してくださいました。地元FM局の取材もあり、調査成果を紹介することができました。

■ 今後の予定

これらの調査成果を整理し、今後の保存・活用のための基礎資料となるように、調査・研究を進め、その成果を授業支援でも活用していきます。